

公共部門における県産材利用の実績・計画

1 平成 29 年度実績

公営住宅、観光施設、福祉施設、学校等の整備で木造・木質化に取り組み、また、治山、林道、造林、防潮堤工事等で発生した木材について、現地での活用を進めた結果、目標に対する達成率は 120%となりました。

単位：m³

| 区 分 | 公 共 施 設 整 備 | 公 共 土 木 工 事 | 計 |
|-----------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 県（県営・県補助） | 2, 9 6 2 | 1 6, 6 2 8 | 1 9, 5 9 0 |
| 市町等 | 3, 0 3 0 | 2 3 2 | 3, 2 6 2 |
| （うちバイオマス） | （2, 2 6 8） | （—） | （2, 2 6 8） |
| 計 | 5, 9 9 2 | 1 6, 8 6 0 | 2 2, 8 5 2 |
| 単年度目標 | 6, 2 0 0 | 1 2, 8 0 0 | 1 9, 0 0 0 |
| 達成率 | 9 7 % | 1 3 2 % | 1 2 0 % |

2 平成 30 年度計画

引き続き、公共施設の整備における木造・木質化や公共土木工事における現地発生材の利用に加え、バイオマス利用などを計画します。

単位：m³

| 区 分 | 公 共 施 設 整 備 | 公 共 土 木 工 事 | 計 |
|-----------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 県（県営・県補助） | 1, 5 0 3 | 1 9, 9 9 1 | 2 1, 4 9 4 |
| 市町等 | 3, 4 1 8 | 1 0 9 | 3, 5 2 7 |
| （うちバイオマス） | （3, 2 2 5） | （—） | （3, 2 2 5） |
| 計 | 4, 9 2 1 | 2 0, 1 0 0 | 2 5, 0 2 1 |
| 単年度目標 | 6, 2 0 0 | 1 4, 8 0 0 | 2 1, 0 0 0 |
| 充足率 | 7 9 % | 1 3 6 % | 1 1 9 % |

各部署の取組状況等の報告

| 知事戦略局 | |
|-----------------|---|
| 平成 29 年度 の取組 | <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民だより（平成 29 年 10 月号）で、「県産材を使おう！」を掲載し、木を使うことの利点や住んでよし しずおか木の家推進事業について紹介した（広聴広報課） ・ TV「ふじのくに広聴広報課!!」（平成 29 年 10 月 8 日放送）で、「静岡の木を使いましょう！」を放送し、木を使うことの利点や「住んでよし しずおか木の家推進事業」について紹介した（広聴広報課） ・ ラジオのお知らせ（平成 29 年 9 月 25 日放送）で、「住んでよし しずおか木の家推進事業」について紹介した（広聴広報課） |
| 平成 30 年度 の計画 | <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県広報紙の特性である県民に広く周知できる点、TV 広報番組の特性である視聴者に臨場感や感性に訴えられる点、ラジオ広報番組の特性である、家事や仕事、車の運転などを行いながら聴取ができる点を生かし、県産材活用に関する助成制度の概要や、県産材が持つ特長や心地良さを PR する（広聴広報課） |

| 政策推進局 | |
|-----------------|----|
| 平成 29 年度 の取組 | なし |
| 平成 30 年度 の計画 | なし |

経営管理部

平成 29 年度
の取組

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 下田市内に新築した賀茂危機管理庁舎（防災棟）の工事について、内装木質化により県産材を使用した（管財課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ コミュニティ施設への県産材利用の働きかけをした（地域振興課）

○主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-----------------|--------|
| ・ 賀茂危機管理庁舎（防災棟） | 11 |
| ・ 地区公会堂での県産材の利用 | 64 |

平成 30 年度
の計画

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 県庁舎等における木質化を伴う修繕工事等の案件を発注する場合には、積極的に県産材を使用する（管財課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 市町を対象としたコミュニティ施設整備事業において、事業説明会や補助金交付申請時の際に県産材の利用を働きかける（地域振興課）
- ・ 事業対象施設への県産材の利用状況を情報収集し、好事例について市町へ情報提供し、県産材の積極的活用を促す（地域振興課）

くらし・環境部

平成 29 年度
の取組

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 県営住宅の建替(1 団地 138 戸)及び全面的改善(2 団地 70 戸)において腰壁や床材等に県産木材を使用した(公営住宅課)
- ・ 県立森林公園森の家の外壁補修部材に県産材を使用した(環境ふれあい課)

<公共施設における工作物での県産材の利用>

- ・ 県立森林公園内の木製遊具の更新に県産材を使用した(環境ふれあい課)
- ・ 口坂本県有林内の木製看板に県産材を使用した(環境ふれあい課)
- ・ 東光寺県有林内の木道の付け替えに県産材を使用した(環境ふれあい課)

<森林認証材の利用>

- ・ 森づくり大作戦のパンフレットに森林認証材、森の町内会の紙を使用した(環境ふれあい課)

○主な県産材利用施設 (単位: m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|--|--------|
| ・ 県営住宅の建替(1 団地 138 戸)、全面的改善(2 団地 70 戸) | 412 |

平成 30 年度
の計画

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 県営住宅の建替え(3 団地 122 戸)、全面的改善(2 団地 72 戸)において腰壁や床材等で県産材を使用する(公営住宅課)

<公共施設における工作物での県産材の利用>

- ・ 県立森林公園内の木製遊具等の工作物の更新に県産材を使用する(環境ふれあい課)
- ・ 口坂本県有林内の木柵に県産材を使用する(環境ふれあい課)

<森林認証材の利用>

- ・ 森づくり大作戦のパンフレットに森林認証材、森の町内会の紙を使用する(環境ふれあい課)

○主な県産材利用施設 (単位: m³)

| 施設名等 | 県産材利用見込量 |
|---|----------|
| ・ 県営住宅の建替え(3 団地 122 戸)、全面的改善(2 団地 72 戸) | 281 |

文化・観光部

平成 29 年度
の取組

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 富士山世界遺産センターにおいて、逆さ富士形の木格子に県産材（森林認証材 SGEC）（74m³）を活用した（富士山世界遺産課）
- ・ 県が発注する事業において、県産材を利用した（観光政策課）
- ・ 富士山静岡空港旅客ターミナルビル増築・改修工事において、西側増築部（木梁、庇）に使用する県産材の調達を行った（空港運営課）
- ・ 森林認証プロジェクトを取得するための調整を行った（空港運営課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 市町を対象とした観光施設整備事業費補助金において、次の取組を行い、県産材の利用を働き掛けた（観光政策課）
 - ① 事業説明会や計画ヒアリングの際に、県産材の利用を働きかけた
 - ② 事業チェックリストで県産材の利用計画を確認し、計画がない場合は理由を求めた

○ 主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-----------------------|--------|
| ・ 遊歩道の標識、工作物等への県産材の利用 | 36 |
| ・ 富士山世界遺産センター | 74 |

平成 30 年度
の計画

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 引き続き、県が発注する事業において、県産材を利用する（観光政策課）
- ・ 富士山静岡空港旅客ターミナルビル増築・改修工事において、南側増築部（木梁、庇）に使用する県産材を調達するための調整を行う（空港運営課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 引き続き、事業説明会や計画ヒアリングの際に、県産材の利用を働きかける（観光政策課）
- ・ 補助金交付申請時に県産材の利用が可能であると判断できる箇所があった場合は、個別に県産材の利用を働きかける（観光政策課）

○ 主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-----------|--------|
| ・ 富士山静岡空港 | 219 |
| ・ 日本平観光施設 | 54 |

健康福祉部

平成 29 年度
の取組

＜公共建築物での県産材の利用＞

- ・ 補助事業者に対して、基本設計審査時及び実施設計審査時に県産材の利用について情報提供を行った（介護保険課）
- ・ 事業者向けの資料を作成し、施設整備関係者に配布、説明するなど、普及啓発に努めた（福祉指導課）
- ・ 基本設計審査時に木材利用検討書の提出、実施設計審査時や工事検査時に設計者にヒアリングによる情報収集を行った（福祉指導課）
- ・ 基本設計審査の指導等において、木質化による県産材利用の普及に努めた（こども未来課）
- ・ 事前相談、概要ヒアリング、基本設計審査、実施設計審査において、県産材利用の普及に努めた（障害者政策課）
- ・ 7月に竣工した県立総合病院先端医学棟のラウンジ等の共用部分に県産材による木製ルーバーを設け、やわらかく温かみのある空間を形成した（医療政策課）

○ 主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-------------------|--------|
| ・ 静岡県立総合病院（先端医学棟） | 14 |
| ・ 社会福祉施設あぼかど | 32 |

平成 30 年度
の計画

＜公共建築物での県産材の利用＞

- ・ 補助事業者に対して、基本設計審査時及び実施設計審査時に県産材の利用について情報提供を行う（介護保険課）
- ・ 施設整備の立案の早い段階で良い事例などを紹介することにより、一層の普及啓発に努める（福祉指導課）
- ・ 引き続き、基本設計審査の指導等において木質化による県産材利用の普及に努める（こども未来課）
- ・ 吉原林間学園の管理棟等の建築において、内装に県産材を使用し、体育館の建築において、大断面集成材を使用し木造化に取り組む（こども家庭課）
- ・ 事前相談、概要ヒアリング、基本設計審査、実施設計審査において、県産材利用の普及に努める（障害者政策課）

・ 主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|----------------|--------|
| ・ 吉原林間学園 管理棟ほか | 240 |
| ・ 吉原林間学園 体育館 | 262 |

経済産業部

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 水産技術研究所の新築工事で腰壁等に利用した（研究開発課）
- ・ 沼津市西野の東海大学旧開発工学部4号館を改修して整備する、A O Iプロジェクトの拠点施設「AOI-PARC」（アオイパーク）の1階玄関ホール、エントランス、ロビー及び交流室の壁仕上げに、県産材（約2.7 m³）を活用した（施設は平成29年8月に開所）（農業戦略課）
- ・ 島田市の旧「お茶の郷」を改修し「ふじのくに茶の都ミュージアム」を整備、吹寄せ壁、カフェレストラン、博物館棟などに県産材を活用した（54.7 m³、樹種：ヒノキ、スギ）（施設は平成30年3月に開所）（ふじのくに茶の都ミュージアム企画総務課）

<物品調達等での県産材の利用>

- ・ 静岡県技能マイスター認定式や、技能競技大会入賞者への顕彰状授与の際、県産材の額縁を使用した（職業能力開発課）
- ・ 「グッドデザインしずおか」の選定品への認定書（楯、13点）の台座部分に県産材を使用した（地域産業課）
- ・ 「地域のお店」デザイン表彰の大賞受賞者へ、副賞として県産材を使用したトロフィーを授与した（地域産業課）

<木質バイオマスとしての県産材の利用>

- ・ 農林技術研究所森林・林業研究センターで木質ペレットを冷暖房に利用した（研究開発課）
- ・ 木質材料の主成分であるセルロースを、ナノオーダーまで微細化することで得られるバイオマス素材のCNF（セルロースナノファイバー）について、県内企業に技術支援等を行うなど、製品開発を促進した（新産業集積課）
- ・ 次世代施設園芸導入支援事業により整備した施設の本格稼働に伴い、木質ペレットボイラーを活用した燃油価格に影響されない施設園芸の経営モデルを検証し、目標とした化石燃料の50%削減を達成した（農芸振興課）

<公共土木工事での県産材の利用>

- ・ 板柵で県産材を使用した（農地整備課）
- ・ 工事案内看板（PR看板）や測量で使用する丁張等で県産材を使用した（農地整備課）
- ・ 森の力再生事業の施工地において、伐採木を使用した丸太積み土留（簡易な木製構造物）の設置を整備者に対して指導した（森林計画課）
- ・ 林道（作業道）開設の際に発生する根株や支障木等の現地発生材を、現場内で路肩構造物等に有効利用した（森林整備課）
- ・ 林道工事の柵工においては、木柵工を標準とし県産材の利用に努めた（森林整備課）

平成29年度の
取組

- ・ 谷止工等の型枠について、県産材合板型枠を標準とするとともに、上流側を残置することとし、利用量増を図った（森林保全課）
- ・ 丸太筋工やマルチング材等に現地発生材を使用した（森林保全課）
- ・ 防風工に県産材を利用した（森林保全課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 施設整備に係る補助事業において、事業主体に県産材の利用を働き掛け、内装の一部に県産材を利用した（水産振興課）

○主な県産材利用施設

（単位：m³）

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|--------------------|--------|
| ・ AOI-PARC（アオイパーク） | 3 |
| ・ ふじのくに茶の都ミュージアム | 55 |

平成 30 年度
の計画

＜公共建築物での県産材の利用＞

- ・ 水産技術研究所伊豆分場の新築工事で腰壁等に利用する（研究開発課）

＜物品調達等での県産材の利用＞

- ・ 静岡県技能マイスター認定式や、技能競技大会入賞者への顕彰状授与の際、県産材の額縁を使用する（職業能力開発課）
- ・ 「地域のお店」デザイン表彰の大賞受賞者へ、副賞として県産材を使用したトロフィーを授与する（地域産業課）

＜木質バイオマスとしての県産材の利用＞

- ・ 農林技術研究所森林・林業研究センターで木質ペレットを冷暖房に利用する（研究開発課）
- ・ CNF を利用した製品開発について、県内企業に対し、試作品開発助成や技術支援、他企業とのマッチング等を行うことなどにより、製品化による利用を働き掛ける（新産業集積課）
- ・ 次世代施設園芸導入支援事業により整備した木質ペレットボイラーを活用した施設園芸団地の経営モデルの確立を支援する。また、セミナー等により木質ペレットボイラー等の取組を県内生産者に普及を図る（農芸振興課）

＜公共土木工事での県産材の利用＞

- ・ 工事看板において県産材を使用する（農地整備課）
- ・ 森の力再生事業の施工地において、伐採木を使用した丸太積み土留（簡易な木製構造物）の設置を整備者に対して指導する（森林計画課）
- ・ 林道（作業道）開設の際に発生する根株や支障木等の現地発生材を、現場内で路肩構造物等に有効利用する（森林整備課）
- ・ 林道工事の柵工においては、木柵工を標準とし県産材を利用するよう努める（森林整備課）
- ・ 引き続き、谷止工等において、上流側の県産材合板型枠を残置式とすることで県産材の利用を推進する（森林保全課）
- ・ 丸太筋工やマルチング材に現地発生材を使用する（森林保全課）
- ・ 防風工に県産材を使用する（森林保全課）
- ・ 県産材を使用した木製谷止工を施工する（森林保全課）

＜市町、民間での県産材の利用＞

- ・ 施設整備に係る補助事業において、事業主体に県産材の利用を働き掛ける（水産振興課）

交通基盤部

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 県有建築物の整備にあたり、工事依頼課に県産材の利用促進を働きかけ、工事依頼課と連携して利用に努めた（富士山世界遺産センターの木格子（森林認証材 SGEC の利用）、お茶の都ミュージアム吹き寄せ壁（森林認証材 FSC の利用）、高校長寿命化改修（6校）の内装、下田総合庁舎防災棟の内装、AOI-PARK の内装、水産技術研究所の内装）（営繕企画課、営繕工事課）
- ・ 建築関係職員向けに、県産材を活用した現場の研修を実施した（富士山世界遺産センター、富士山静岡空港、お茶の都ミュージアム、清水東高校、島田商業高校）（営繕工事課）
- ・ 建築関係の若手職員向けに、木材の性質、木造建築物の維持管理等の座学研修を実施した（営繕工事課）
- ・ 富士山こどもの国のシカ避難小屋の改築にあたり、大部分の構造材・非構造材に利用した（公園緑地課）

<公共施設における工作物での県産材の利用>

- ・ ふじのくに田子の浦みなと公園のシンボルタワーの手摺りに利用した（港湾整備課）
- ・ 鈴川緑地のあずまやの建設に利用した（港湾整備課）
- ・ 県営吉田公園の修繕工事において、木橋の床板及び手摺りと遊歩道の木柵に利用した（公園緑地課）

<公共土木工事での県産材の利用>

- ・ 工事発注者（県及び市町担当者）に会議を通して積極的利用を促した（建設技術企画課）
- ・ 県の建設資材単価について、県産材として流通量が少ないマツから流通量の多いスギ、ヒノキを充実すべく見直しを行った（建設技術企画課）
- ・ 道路法面の崩壊土砂対策として、防護柵に利用した（道路整備課、道路保全課）
- ・ 防潮堤法面の植栽木を、飛砂、強風から保護するための木柵として利用した（河川海岸整備課）
- ・ 親水エリアの修景及び利活用を踏まえた木柵護岸として利用した（河川海岸整備課）
- ・ 地すべり工事において、表面浸食防止のための編柵工として利用した（砂防課）
- ・ 砂防堰堤施工時の地山との間詰めの木柵工として利用した（砂防課）
- ・ 山留、型枠、工事看板、バリケード、丁張、木杭等の仮設材として利用した（道路整備課、道路保全課、河川海岸整備課、砂防課、港湾整備課）
- ・ 御前崎港における「静岡モデル」防潮堤整備促進事業で、土砂一時保管施設の防風柵に利用した（港湾企画課）

平成 29 年度
の取組

| | |
|-------------------------|--|
| <p>平成 30 年度 の計画</p> | <p><公共建築物での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「公共建築物等の木造・木質化に関する基準」に基づき、2階建以下の建築物の原則木造化や、全ての建物の内装の原則木質化など、工事依頼課に対して県の方針を説明するとともに、県産材の利用拡大を働きかけ、工事依頼課と連携して利用拡大に努めていく（日本平山頂シンボル施設の木質化、内装（木組）・富士山静岡空港の木梁、内装・吉原林間学園の内装、体育館木造化）（営繕企画課、営繕工事課） <p><公共土木工事での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事発注者（県及び市町担当者）に会議を通して積極的利用を促していく（建設技術企画課） ・ 側溝の杭基礎として県産材を利用する（道路整備課） ・ 防潮堤法面の植栽木を、飛砂、強風から保護するための木柵として利用する（河川海岸整備課） ・ 親水エリアの修景及び利活用を踏まえた木柵護岸として利用する（河川海岸整備課） ・ 河川護岸の基礎杭として利用する（河川海岸整備課） ・ 型枠、工事看板、バリケード、丁張、木杭等の仮設材として利用する（道路整備課、道路保全課、河川海岸整備課、砂防課、港湾整備課） |
|-------------------------|--|

| 出納局 | |
|-------------|--|
| 平成 29 年度の取組 | <p><物品調達等での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境局、森林・林業局からの発注仕様に基づき、間伐に寄与する紙の使用を条件とした印刷物 6 件の発注を行った（用度課） ・ サプライセンターの単価契約物品として A3 県産材額縁を 155 個購入した（用度課） |
| 平成 30 年度の計画 | <p><物品調達等での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各所属からの発注仕様に基づき、引き続き県産材使用製品の物品調達、印刷物発注に対応していく（用度課） ・ サプライセンターの単価契約物品の県産材額縁の今後の発注に対応していく（用度課） |

| 企業局 | |
|-------------|--|
| 平成 29 年度の取組 | <p><公共土木工事での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「富士山麓フロンティアパーク 小山」の造成本体工事において、伐採した支障木の一部からマルチング用チップを作成、一箇所試験施工を実施した（地域整備課） |
| 平成 30 年度の計画 | <p><公共土木工事での県産材の利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「富士山麓フロンティアパーク 小山」の造成本体工事において、伐採した支障木から作成したチップを植栽部のマルチング材として使用する（地域整備課） |

教育委員会

平成 29 年度
の取組

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 特別支援学校整備（東部特別支援学校）において、校舎や体育館の木造、木質化を図った（財務課）
- ・ 高校長寿命化改修（裾野、清水東、藤枝東、島田商業、掛川西、新居）において、校舎の木質化を図った（財務課）
- ・ 県立学校修繕工事において、体育館等の木質化を図った（県立高校 4 校）（財務課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 市町教委を通じて、小中学校等の木造、木質化等への木材の利用について普及促進を図った（小中学校など 25 施設で木造、木質化実施）（財務課）

○主な県産材利用施設

（単位：㎡）

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-----------|--------|
| ・ 清水東高等学校 | 67 |
| ・ 掛川西高等学校 | 93 |

平成 30 年度
の計画

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 特別支援学校整備（東部特別支援学校）において、校舎や体育館の木造、木質化を図る（財務課）
- ・ 特別支援学校整備（三島・田方地区特別支援学校(仮称)、浜松地区特別支援学校(仮称)）において、校舎や体育館の木造、木質化を見込んだ設計を行う（財務課）

<市町、民間での県産材の利用>

- ・ 市町教委を通じて、小中学校等の木造、木質化等への木材の利用について普及促進を図る（小中学校など 28 施設で木質化実施予定）（財務課）

○主な県産材利用施設

（単位：㎡）

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|-----------------------------------|--------|
| ・ 東部特別支援学校（校舎棟） | 89 |
| ・ " (体育館) | 136 |

警察本部

平成 29 年度
の取組

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ 下田警察署松崎分庁舎や交番・駐在所の建築において、内装材に県産材を利用した（施設課）

○主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|--------------------------------|--------|
| ・ 下田警察署松崎分庁舎建築での県産材の利用(内装、造作等) | 6 |
| ・ 交番、駐在所建築での県産材の利用(内装、造作等) | 9 |

平成 30 年度
の計画

<公共建築物での県産材の利用>

- ・ (仮称) 浜松西警察署や交番の建築において、内装材に県産材を利用する（施設課）
- ・ 湖西警察署新築工事設計業務において、内装材への県産材の利用を考慮する（施設課）

○主な県産材利用施設 (単位：m³)

| 施設名等 | 県産材利用量 |
|---------------------------------|--------|
| ・ (仮称) 浜松西警察署建築での県産材の利用(内装、造作等) | 12 |
| ・ 交番、駐在所建築での県産材の利用(内装、造作等) | 8 |

市町 等

平成 29 年度
の取組

| 区分 | 事業主体 | 施設名 | 県産材 利用量 |
|------------------------|-------------------------|-----------------|----------------------|
| 公共建築物・ 物品調達・ 工作物 | 浜松市 (32 件) | 有玉大谷緑地ほか | 282 m ³ |
| | 静岡市 (26 件) | 日本平公園展望回廊ほか | 220 m ³ |
| | 富士市 (3 件) | (仮称) 北西部児童館ほか | 94 m ³ |
| | 裾野市 (2 件) | 上原集会所ほか | 8 m ³ |
| | ほか | | 158 m ³ |
| 土木工事 | 市町 | 工事用看板、木製残存型枠 ほか | 232 m ³ |
| 木質バイオマス | 公共建築物等での冷暖房等のエネルギーとして利用 | | 2,268 m ³ |

平成 30 年度
の計画

| 区分 | 事業主体 | 施設名 | 県産材 利用量 |
|------------------------|-------------------------|-----------------|----------------------|
| 公共建築物・ 物品調達・ 工作物 | 浜松市 (16 件) | 天竜区役所本館ほか | 39 m ³ |
| | 静岡市 (12 件) | あさはた緑地農業体験棟ほか | 75 m ³ |
| | 富士宮市 (1 件) | 上野児童クラブ | 25 m ³ |
| | 三島市 (1 件) | 三島市立北中学校南校舎棟 | 10 m ³ |
| | ほか | | 44 m ³ |
| 土木工事 | 市町 | 工事用看板、木製残存型枠 ほか | 109 m ³ |
| 木質バイオマス | 公共建築物等での冷暖房等のエネルギーとして利用 | | 3,688 m ³ |